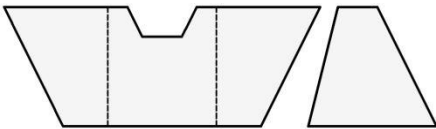
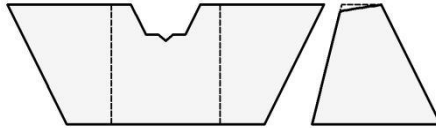
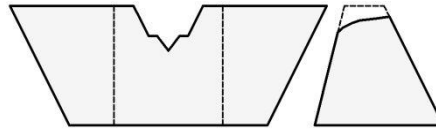
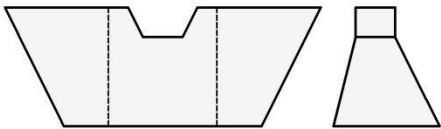
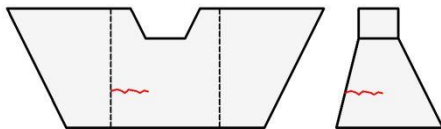
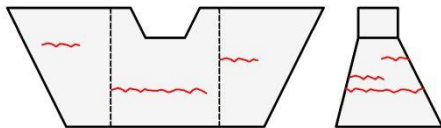


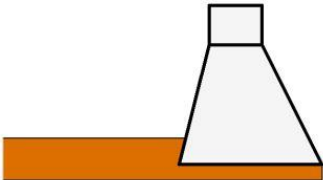
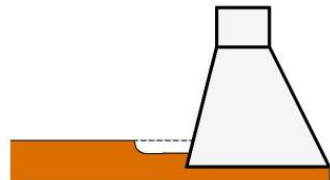
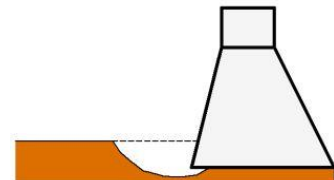
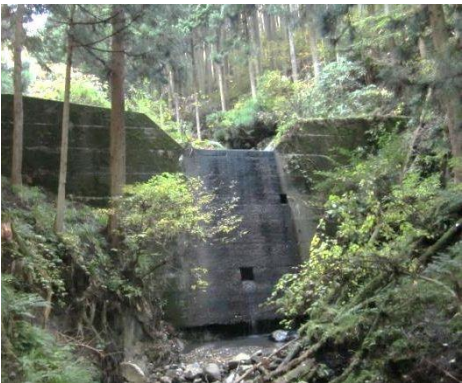
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 1/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		天端摩耗	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な摩耗 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない ○鉛直方向の摩耗深さが概ね1リフト程度未満 	
	c	機能・性能低下あり ○鉛直方向の摩耗深さが概ね1リフト程度以上 	
評価の観点		・天端摩耗は堰堤の安定性等への直接的な影響は少ない。 ・計画堆砂高が低下することより、土砂流送抑制等の機能の低下が生じる。 ・摩耗が進行すると、流水や流出土砂が摩耗範囲を集中的に流下することとなり、摩耗の進行速度が増加する。 ・リフト単位での補修が効率的と考えられる。	
点検留意事項		・水通し部(天端及び袖小口)は、張石工、張ブロック工、高強度コンクリート保護工(膠石コンクリート、グラノリシックコンクリート)、ゴム鋼板の堤冠保護工など、本体コンクリートよりも高強度の材料で保護することが一般的であるが、土砂や石礫の流下量の多い溪流では、摩耗により損傷(張石、張ブロック等の流失欠損)が発生しやすいので注意する。 ・水通し部の損耗(幅、長、深さ)等に注目して写真記録を行う。特に水通し天端上流端まで到達しているような摩耗は、その進行状況を丁寧に観察し記録することが望ましい。 ・写真撮影に当たっては、摩耗等の進行状況が把握しやすいように、できるだけ定位置から撮るように心がける必要がある。	

主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 2/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		ひび割れ	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし ○軽微なひび割れ  
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○水平方向ひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度未満  
	c	機能・性能低下あり	○水平方向ひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度未満 ○ひび割れが上下流に連続して発生  
評価の観点		・本体のひび割れが上下流につながっていると想定される場合は、詳細調査を検討する。 ・未満砂の堰堤でひび割れが生じ、流体力などが作用すると堰堤が損傷し、機能の低下が懸念される。 ・ひび割れの生じている堰堤では特に堆砂状況を確認する。	
点検留意事項		・水通し部(天端及び袖小口)は、張石工、張ブロック工、高強度コンクリート保護工(膠石コンクリート、グラノリシックコンクリート)、ゴム鋼板の堤冠保護工など、本体コンクリートよりも高強度の材料で保護することが一般的であるが、土砂や石礫の流量の多い溪流では、摩耗により損傷(張石、張ブロック等の流失欠損)が発生しやすいので注意する。 ・水通し部の損耗(幅、長、深さ)等に着目して写真記録を行う。特に水通し天端上流端まで到達しているような摩耗は、その進行状況を丁寧に観察し記録することが望ましい。 ・写真撮影に当たっては、摩耗等の進行状況が把握しやすいように、できるだけ定位置から撮るよう心がける必要がある。	

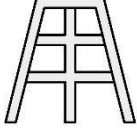
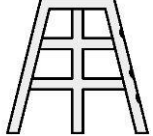
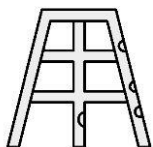
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 3/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		洗掘	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a 軽微な損傷	○変状なし ○軽微な洗掘 	
	b 損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○基礎部の洗掘が堰堤基準面に達していない 	
	c 機能・性能低下あり	○基礎部の洗掘が堰堤基準面に達している 	
評価の観点		・洗掘が堰堤基礎底面まで進行すると、堰堤の支持基盤に影響し、堰堤の性能である安定条件(転倒・滑動・支持力)の低下につながる。 ・水叩きが無い施設では、性能低下の影響が大きい。 ・常時流水があるか確認する。 ・この他に、水叩きの有無、基礎地盤の状況、流量、流況、河床低下等が洗掘の進行に影響すると考えられるので、重点的に点検する。	
点検留意事項		・本堤基礎前面の溪床の洗掘は、堤体安定に直接影響するため、特に留意する必要がある。	

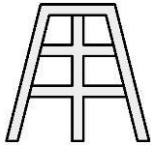
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 4/16)

対象部位			本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態			漏水	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし ○軽微な漏水 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○部分的に漏水している 	
	c	機能・性能低下あり	○本体の広範囲にわたる漏水 ○基礎底面部からの漏水 ○兩岸地山と堰堤境界方面からの漏水 	
評価の観点			・堤体からの漏水は、機能の直接的な低下にはつながらない。 ・地山との境界部や基礎地盤からの湧水・漏水はパイピング、基礎地盤の破壊につながる可能性がある。	
点検留意事項			・漏水個所が同じような水平位置に多数分布する場合は、堤体内部の連続した水平ひび割れの存在が疑われる。 ・漏水量の変化や濁りの有無も健全度の評価において有益な情報となるので注意して記録する。 また、漏水が確認された場合、地山の亀裂、段差の有無も確認する。	

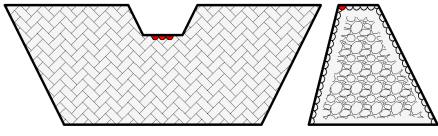
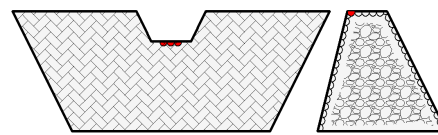
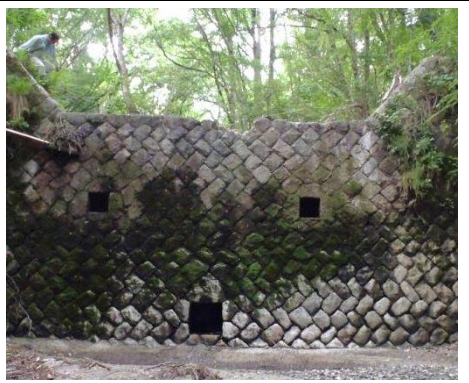
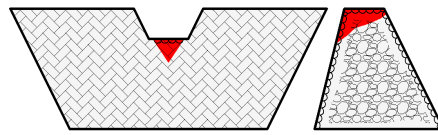
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 5/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		【鋼製】変位変形	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 【評価の目安】 ○中空鋼管: 鋼管径に対する鋼管の凹み10%未満 ○コンクリート充填鋼管: 部材のたわみ変形角2度未満 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない 【評価の目安】 ○中空鋼管: 鋼管径に対する鋼管の凹み10%～40%未満 ○コンクリート充填鋼管: 部材のたわみ変形角2～5度未満 	
	c	機能・性能低下あり 【評価の目安】 ○中空鋼管: 鋼管径に対する鋼管の凹み40%以上 ○コンクリート充填鋼管: 部材のたわみ変形角5度以上 	該当写真事例なし
評価の観点		・評価の目安は鋼製砂防構造物設計便覧(鋼製砂防構造物委員会編集 平成 21 年版 財団法人砂防地すべり技術センター)による。 ・大きな変形や変位は機能低下につながる。 ・変形等の有無は目視で確認できるが、機能低下につながる変形等かについては詳細点検により相互確認する。	
点検留意事項		【鋼製透過型構造の堰堤】 ・越流部の鋼製部材の変形、破損(座屈、圧壊、せん断等)、腐食、摩耗に留意する。また、常時流水が集中する鋼材脚部や、鋼材を定着している透過部の基礎(脚部コンクリートや水叩きコンクリート)の摩耗等に留意して点検を行う。 ・非越流部は、不透過型のコンクリート堰堤に準ずる。 ・透過型砂防堰堤は、平常時に堆積した土砂及び流木は、計画的に除石することを前提としているが、上流側の堆砂状況の確認は定期点検により確認する。 【鋼製不透過型構造の堰堤】 ・鋼製不透過型構造の堰堤は、鋼製材料による枠構造、ダブルウォール構造、セル構造(開口部なし)の外殻に、中詰材料として現地発生土や石礫などを充填して堤体を構成しており、鋼製部材の変形、破損(座屈、圧壊、せん断等)、腐食、摩耗、及びそれに伴う、中詰材料の流失、空洞化などに留意する。 ・鋼製部材の変形等を適切に表現できるように、記録する。 ・水通し天端は、コンクリート構造堰堤の水通し天端の摩耗に準ずる。	

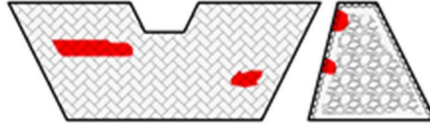
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 6/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		【鋼製】腐食	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a 軽微な損傷	【評価の目安】 ○変状なし ○軽微な腐食 	
	b 損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	【該当なし】	該当写真事例なし
	c 機能・性能低下あり	【評価の目安】 ○鋼材の余裕しろが無くなった状態 	該当写真事例なし
評価の観点		・評価の目安は鋼製砂防構造物設計便覧(鋼製砂防構造物委員会編集 平成21年版 財団法人砂防地すべり技術センター)による。 ・腐食により余裕しろが無くなった状態は機能低下につながる。 ・腐食の状態については目視で確認できるが、余裕しろの不足状況については詳細点検により相互確認する。	
点検留意事項		【鋼製透過型構造の堰堤】 ・越流部の鋼製部材の変形、破損(座屈、圧壊、せん断等)、腐食、摩耗に留意する。また、常時流水が集中する鋼材脚部や、鋼材を定着している透過部の基礎(脚部コンクリートや水叩きコンクリート)の摩耗等に留意して点検を行う。 ・非越流部は、不透過型のコンクリート堰堤に準ずる。 ・透過型砂防堰堤は、平常時に堆積した土砂及び流木は、計画的に除石することを前提としているが、上流側の堆砂状況の確認は定期点検により確認する。 【鋼製不透過型構造の堰堤】 ・鋼製不透過型構造の堰堤は、鋼製材料による枠構造、ダブルウォール構造、セル構造(開口部なし)の外殻に、中詰材料として現地発生土や石礫などを充填して堤体を構成しており、鋼製部材の変形、破損(座屈、圧壊、せん断等)、腐食、摩耗、及びそれに伴う、中詰材料の流失、空洞化などに留意する。 ・鋼製部材の変形等を適切に表現できるように、記録する。 ・水通し天端は、コンクリート構造堰堤の水通し天端の摩耗に準ずる。	

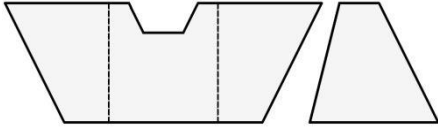
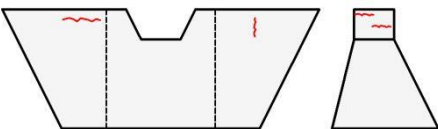
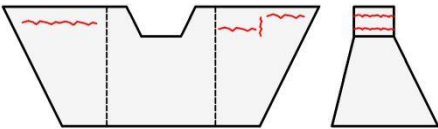
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 7/16)

対象部位			本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態			【石積】欠損・天端	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○天端石の欠損が水平かつ鉛直方向で概ね2個未満  ※赤着色: 欠損箇所	
	c	機能・性能低下あり	○天端石の欠損が水平かつ鉛直方向で概ね2個以上  ※赤着色: 欠損箇所	
評価の観点			・表面石張は内部材を保護する役割を持ち、石張りの欠損は内部コンクリート(貧配合の場合が多い)の損傷につながり、将来的には機能や性能に影響を及ぼす。 ・天端石の欠損により、流水や流出土砂が欠損部を集中的に流下することとなり、欠損範囲の拡大が進行する。	
点検留意事項			・登録有形文化財に指定されるなど歴史的に重要な施設については、「歴史的砂防施設の保存活用ガイドライン(平成15年5月国土交通省河川局砂防部保全課・文化庁文化財部建造物課)」による点検項目を確認しておくこととする。 ・土砂や石礫の流下量の多い溪流では、天端張石合端の間詰めコンクリート分の流出や張石の流失欠損が発生しやすいので注意する。 ・表面石張など積石の流失欠損により、本体内部に摩耗や損傷が急激に拡大する可能性があるので注意する。	

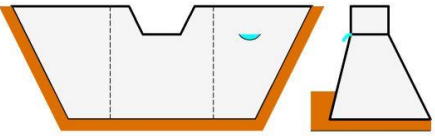
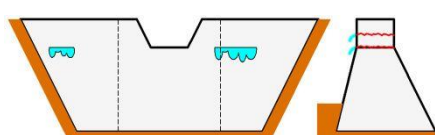
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 8/16)

対象部位			本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態			【石積】欠損・本体	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○石積の欠損が部分的に生じている  ※赤着色: 欠損箇所	
	c	機能・性能低下あり	○石積の欠損が広範囲で生じている  ※赤着色: 欠損箇所	
評価の観点			・表面石張は内部材を保護する役割を持ち、越流部の欠損は内部コンクリート(貧配合場合が多い)の損傷につながり、将来的には機能や性能に影響を及ぼす。 ・袖部は越流部に比べ機能等への影響は大きくないと考えられる。	
点検留意事項			・登録有形文化財に指定されるなど歴史的に重要な施設については、「歴史的砂防施設の保存活用ガイドライン(平成15年5月国土交通省河川局砂防部保全課・文化庁文化財部建造物課)」による点検項目を確認しておくこととする。 ・土砂や石礫の流下量の多い溪流では、天端張石合端の間詰めコンクリート分の流出や張石の流失欠損が発生しやすいので注意する。 ・表面石張など積石の流失欠損により、本体内部に摩耗や損傷が急激に拡大する可能性があるので注意する。	

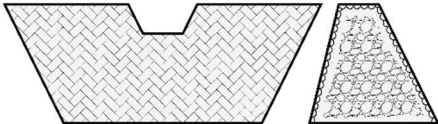
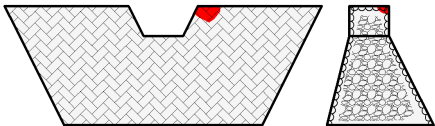
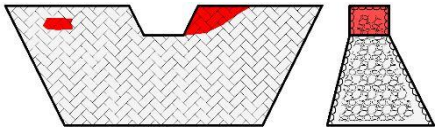
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 9/16)

対象部位			本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態			ひび割れ	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし ○軽微なひび割れ 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○水平方向にひび割れ各ブロック幅の概ね 1/2 程度未満 ○鉛直方向ひび割れが打設リフト内におさまっている 	
	c	機能・性能低下あり	○水平方向のひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度以上 ○鉛直方向ひび割れが打設リフトを超えて発達している 	
評価の観点			・本体のひび割れに準じる。	
点検留意事項			・袖部については、ひび割れの位置・方向・規模、部位の変形方向を記録する。 ・地すべり地においては、袖嵌入部の地山に地割れ等の発生が無いか確認する。 ・漏水や欠損については、堰堤本体に準ずる。	

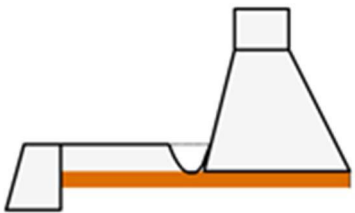
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 10/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		漏水	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な漏水 	
	b	損 傷 あるが、機能・性能低下に至っていない ○部分的に漏水している 	
	c	機能・性能低下あり ○袖の広範囲にわたる漏水 ○両岸地山と袖境界面からの漏水 	
評価の観点		・本体の漏水に準じる。	
点検留意事項		・袖部については、ひび割れの位置・方向・規模、部位の変形方向を記録する。 ・地すべり地においては、袖嵌入部の地山に地割れ等の発生が無い確認する。 ・漏水や欠損については、堰堤本体に準ずる。	

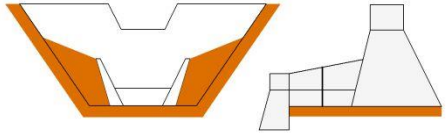
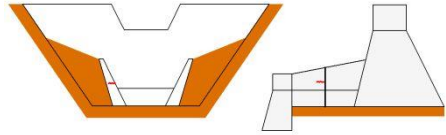
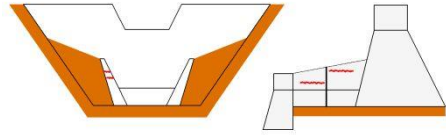
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 11/16)

対象部位			本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態			【石積】欠損	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○積石の欠損が部分的に生じている  ※赤着色：欠損箇所	
	c	機能・性能低下あり	○積石の欠損が広範囲で生じている  ※赤着色：欠損箇所	
評価の観点			・堰堤【石積】の欠損に準じる。	
点検留意事項			・堰堤【石積】の欠損に準じる。	

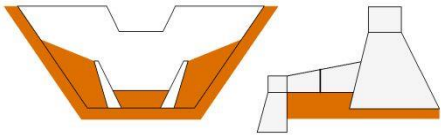
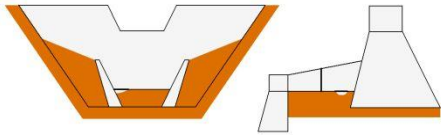
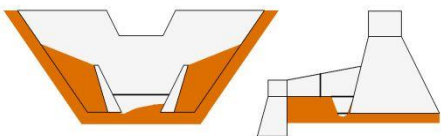
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 12/16)

対象部位		本体(本堤・副堤・床固工・垂直壁)	
変状形態		摩耗	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な摩耗 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない ○摩耗が水叩きの基礎面に達していない 	
	c	機能・性能低下あり ○摩耗が水叩きの基礎面に達している 	
評価の観点		・本体の洗掘に準じる。	
点検留意事項		・流水がある場合、目視では水叩工の状況は確認しにくいものと予想されるが、可能な限り、水叩きの摩耗深さと範囲を確認することが望ましい。 ・本堤基礎に対して、水叩きの損傷や本体基礎部前面の溪床の洗掘が及ぼす影響についても考察が必要である。	

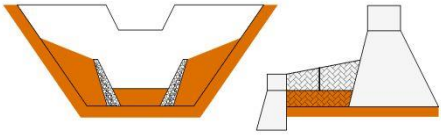
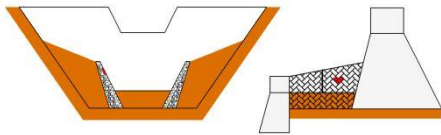
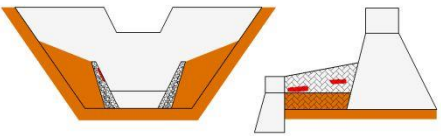
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 13/16)

対象部位			側壁護岸	
変状形態			ひび割れ	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし ○軽微なひび割れ 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○水平方向のひび割れ各ブロック幅の概ね 1/2 程度未満 ○裏込め材の吸出しは確認されない 	
	c	機能・性能低下あり	○水平方向のひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度以上 ○裏込め材の吸出しが確認される 	
評価の観点			・水平方向のひび割れや裏込め材の流失は、側壁の一体性を損ない、土圧への耐力が低下し、将来的には側壁の転倒につながる。	
点検留意事項			・洗掘等や背後地盤等の影響で護岸にせん断クラックや変形が生じていないかどうかのチェックを行う。	

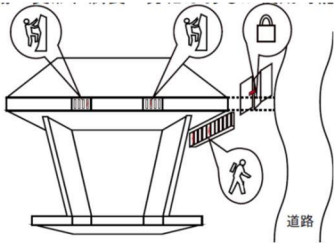
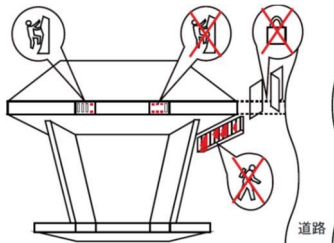
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 14/16)

対象部位		側壁護岸	
変状形態		洗掘(水叩きが池の場合)	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な洗掘 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない ○洗掘が側壁護岸の基礎面に達していない 	
	c	機能・性能低下あり ○洗掘が側壁護岸の基礎面に達している 	
評価の観点		・洗掘が堰堤基礎底面まで進行すると、支持基盤に影響し、安定条件(転倒・滑動・支持力)の低下につながる。	
点検留意事項		・基礎部の洗掘に注意する。	

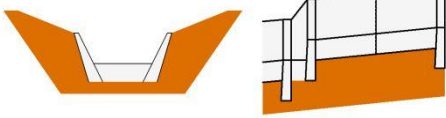
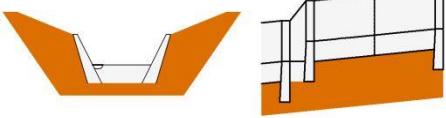
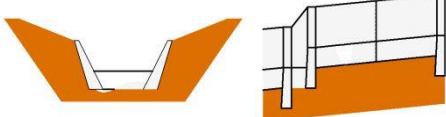
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 15/16)

対象部位			側壁護岸	
変状形態			【石積】欠損	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	○積石の欠損が部分的に生じている  ※赤着色：欠損箇所	
	c	機能・性能低下あり	○積石の欠損が広範囲で生じている  ※赤着色：欠損箇所	
評価の観点			・積石の広範囲の欠損は、側壁の一体性を損ない、土圧への耐力が低下する。	
点検留意事項			・ブロックや積石の欠損に注意する。	

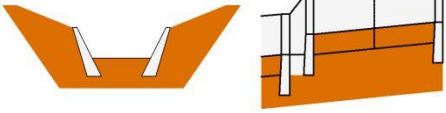
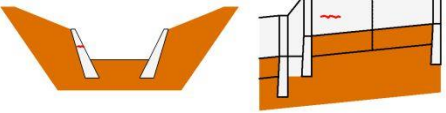
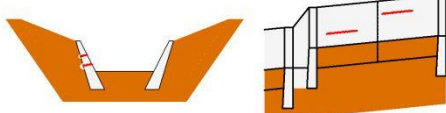
主な部位の変状レベルの評価基準(砂防堰堤・床固工 16/16)

対象部位			側壁護岸	
変状形態			安全設備(立入防止柵、扉、鍵、階段 等)	
項 目			模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷	○変状なし ○損傷・変形、腐食・劣化はあるが使用可能 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない	【該当なし】	該当写真事例なし
	c	機能・性能低下あり	○損傷・変形、腐食・劣化によって使用できない、または、機能していない 	
評価の観点			・安全設備の損傷等が進行すると、関係者以外の侵入・転落による事故等の安全管理上に支障をきたす。 ・点検用設備の損傷・変形、腐食・劣化が進行すると、点検の実施に支障が生じる。	
点検留意事項			・破損等に注意する。	

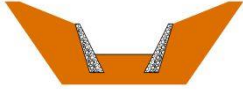
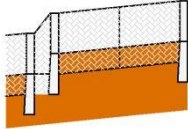
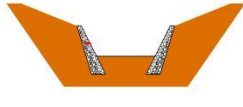
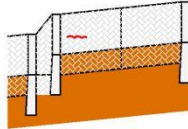
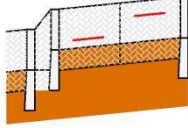
主な部位の変状レベルの評価基準(溪流保全工 1/4)

対象部位		溪流保全工	
変状形態		摩耗(底盤工)	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な摩耗 	
	b	損 傷 あるが、機能・性能低下に至っていない ○摩耗が護岸の基礎面に達していない 	
	c	機能・性能低下あり ○摩耗が護岸の基礎面に達している 	
評価の観点		・摩耗が基礎底面まで進行すると、護岸の支持基盤に影響し、安定条件の低下につながる。	
点検留意事項		・護岸工の基礎面にまで摩耗が及んでいないか着目する。	

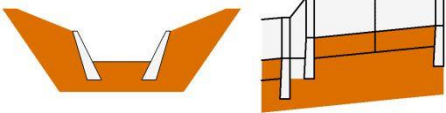
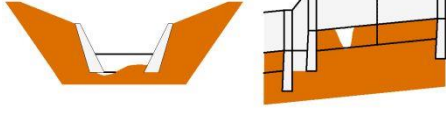
主な部位の変状レベルの評価基準(溪流保全工 2/4)

対象部位		溪流保全工	
変状形態		ひび割れ(護岸・コンクリート)	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微なひび割れ 	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない ○水平方向のひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度未満 ○裏込め材の吸出しは確認されない 	
	c	機能・性能低下あり ○水平方向のひび割れが各ブロック幅の概ね 1/2 程度以上 ○裏込め材の吸出しが確認される 	
評価の観点		・水平方向のひび割れや裏込め材の流失は、護岸の一体性を損ない、土圧への耐力が低下し、将来的には護岸の転倒につながる。	
点検留意事項		・洗掘等や背後地盤等の影響で護岸にせん断クラックや変形が生じていないか確認する。	

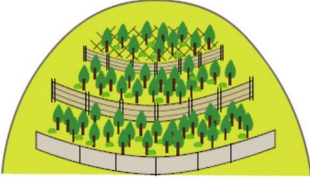
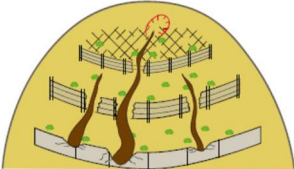
主な部位の変状レベルの評価基準(溪流保全工 3/4)

対象部位		溪流保全工	
変状形態		ひび割れ(護岸・ブロック積)	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微なひび割れ  	
	b	損傷があるが、機能・性能低下に至っていない ○ひび割れが局部的にみられる程度である ○裏込め材の吸出しは確認されない   ※赤着色:ひび割れ箇所	
	c	機能・性能低下あり ○ひび割れが広範囲に生じている ○裏込め材の吸出しが確認される   ※赤着色:ひび割れ箇所	
評価の観点		・ひび割れや裏込め材の流失は、護岸の一体性を損ない、土圧への耐力が低下し、将来的には護岸の転倒につながる。	
点検留意事項		・洗掘等や背後地盤等の影響で護岸にせん断クラックや変形が生じていないか確認する。	

主な部位の変状レベルの評価基準(溪流保全工 4/4)

対象部位		溪流保全工	
変状形態		洗掘(護岸)	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○変状なし ○軽微な洗掘 	
	b	損 傷 ある が、機能・性 能低下に至 っていない ○洗掘が護岸の基礎面に達してい ない 	
	c	機能・性能 低下あり ○洗掘が護岸の基礎面に達している 	
評価の観点		・洗掘が基礎底面まで進行すると、護岸の支持基盤に影響し、安定条件の低下につながる。	
点検留意事項		・基礎部の洗掘に着目する。 ・洗掘と合わせて、背後地盤等の変動の影響や、背後土砂の吸い出しなどで、施設の損傷や変形が生じていないか確認する。	

主な部位の変状レベルの評価基準(その他(山腹工))

対象部位		山腹工	
変状形態		変位、損傷等	
項 目		模式図	事例写真
変状レベル	a	軽微な損傷 ○山腹工に変状なし ○軽微な損傷あるが植生が回復している ○軽微な損傷あるが表土の風化、侵食、崩壊の拡大防止が図られている 	
	b	損 傷 あ る が、機能・性能低下に至っていない 【該当なし】	該当写真事例なし
	c	機能・性能低下あり ○擁壁工等の主要工種に、変位や損傷が生じている。 	該当写真事例なし
評価の観点		・本長寿命化計画では、山腹工の点検対象とする工種は、谷止工や擁壁工等の山腹基礎工とし、これらの構造物としての性能劣化に着眼して点検する。	
点検留意事項		・整備範囲が広範囲な、山腹緑化工等は、本長寿命化計画の対象外とする。	